



かどうぶ

しょうすいりゅう

# 華道部 松翠流

○家元 小林月雲(広太郎)先生

○講師 石田 江雲(美江子)先生

入江 真雲(マリ子)先生

<先生ご指導の様子>



本校の華道部は、毎月2回程度ですが、月曜日の放課後、物理室でお稽古しています。

心からお花が好きな仲間たちが集まり、みな思い思いに花材を活けています。

ふと我を忘れて花の虜となると、ほっとして安らかな気持ちになります。

花を活けるということは心を活けること、美を創り出すことは美の心を創り出すことです。

活ける花には、その作者の心が表れます。

部員の中には、「お花を活けていると、優しい気持ちになれる。」と言う人もいます。

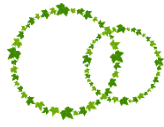
私達は華道によって、豊かな心と教養を学んでいます。

華道に少しでも関心がある方がおられましたら、ぜひ華道部に気軽に足を運んでみてください。

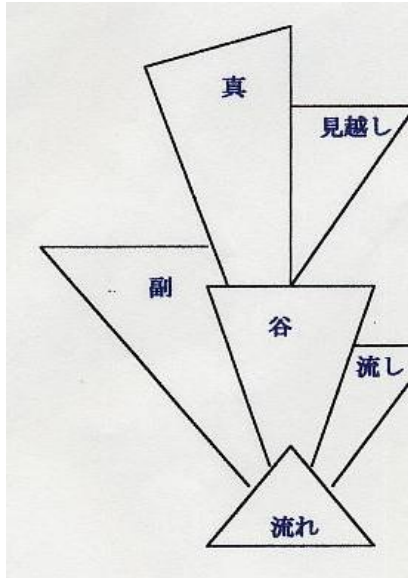
もちろん男子の入部希望者も大歓迎です！

#### 部長・副部長からのメッセージ





## 基礎型構成図



### 松翠流の真髄

真花は紅、松は翠。自然そのものを表すのが松翠流本来の姿であります。自然と言いましても花は紅に、松は翠に、それぞれの持ち場持ち味を生かし、全体としての調和を保ち、リズムをもって自然の美を現出させ、そこに作者の理想を加え、常に新感覚を加味することは言うまでもありません。奇を衒うことなく自然を活けるのが、この流派の真髄であり、「名教自然」という言葉はそのまま松翠流の真髄ともいえます。



## 生け花の歴史

初代 池坊専応

16世紀 たて花(技術以前の精神的な生け方)

2代 池坊専好

17世紀 立華(たて花に技術面を取り入れた生け方)

なげ入れ(花そのものを鑑賞することを目的とし、主客との心理的交流)



18世紀 しょうか(生花)

(花器にさす草木に少しの品目を加え、又、少数の草木でも様々な採り合わせにより放逸にさりげなく、それでいて妙味を巧みに表現する。)



## 【松翠流 免許状取得について】

2年間のお稽古で初伝の免許状が  
取得できます。

毎年、学校祭では華道部全員が手腕を発揮してすばらしい展示会場になるように心がけています。

力を入れて思い出に残る作品を展示することができ、満足しています。

石田先生・入江先生や顧問の先生方とのご協力に心から感謝しております。

部活動と学業の両立が理想的な形でできると思いませんか！



華道部顧問より

日本古来の伝統の素晴らしさと快い癒しを体感していただきたいと思います。